

MJ

Nikkei
Marketing
Journal

日経流通新聞

10月5日(水曜日)

月/水/金 発行

発行所 **日本経済新聞社**

東京本社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
電話(代表) (03) 3270-0251

大阪本社 〒540-8588 大阪府中央区大手前1-1-1
電話(代表) (06) 6943-7111

日本経済新聞電子版 <http://www.nikkei.com/>

NIKKEI MJサイト <http://www.nikkei.co.jp/mj/>

MJメールマガジン <http://www.nikkei4946.com/e-service/>

購読の申し込み先 ☎ 0120-21-4946

<http://www.nikkei4946.com>

少しいいこと 合言葉はエコ

「不用品でモノづくり」プロジェクト

「少しいいことをしよう」。そんな合言葉で「sample（サンプル）プロジェクト」という取り組みが立ち上がった。モノ作りの現場で起きている諸問題にデザイナーとして何ができるか。プロダクトデザイナーの酒井俊彦氏が異分野のデザイナーたちとともに、自主企画で新しいモノやコトを起こしていくプロジェクトだ。

9月末、東京・表参道のギャラリーで「sampleプロジェクト」の発表会が行われた。テーマに応じて酒井氏が複数のデザイナーたちと組んでいく同プロジェクトの第1回は、11組の作り手に声を掛けて新製品を作った。披露したのは革製のiPad（アイパッド）とiPhone（アイフォン）用のケース9点と、ヒノキを使ったiPadとiPhone用スタンド9点。

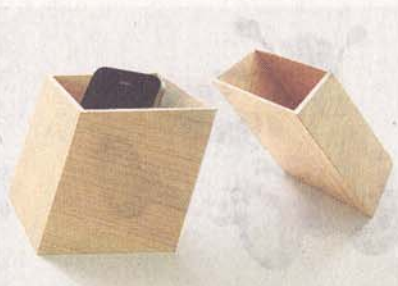
立方体の木の箱がまるでグニャとつぶれたようなだまし絵風のスタンドは、話題のデザインを次々に発表するトラフ建築設計事務所の作。不安定そうに見えるがiPhoneを差し込むと安定し、箱の中で浮かんでいるような収まり方がさらに不思議な印象を与える。

■ほっとできる道具に

気持ちのいい弧を描く楕円のスタンドはiPadを縦でも横でも置ける。部屋の中で使ってもいいし、ファッションやインテリア店での閲覧用でも良さそう。男女3人組のデザインユニット、トネリコが考案した。

家具やインテリアを手掛ける南雲勝志氏のスタンドは毎日酷使されるiPhoneが休憩できる椅子がモチーフ。「最先端の情報端末に自然素材を合わせることでほっとできる道具を作ってみた」と同氏。

イヤホンごと収納できるスタンドは酒井氏自身がデザインした。試作を繰り返しながらコードがきれいに、しかもラクに収まる溝の深さと長さを精密に計算。その一



方で、顔をのぞかせるイヤホンのたたずまいがクスッと笑わせる。

多彩な面持ちはケースも負けていない。ファッションブランド「mame（マメ）」の黒河内真衣子デザイナーが革に刺しゅうを施し立体的な絵柄をワイルドに浮き彫らせれば、グラフィックデザイナー尾原史和氏はフェルトと組みわせて上品なケースに仕立てた。

購入した人がハサミなどで自由にケースの形をカスタマイズできるのは夫婦のデザインユニットseto（セト）の製品。「自分で手を加えることで愛着がわき、暮らしが少しだけ豊かになるもの考えた」と瀬戸けいた氏。

今回使った革はすべて自動車用のシートとして開発されたもの。最高品質の皮革だが、車の仕様変更で使われなくなり、シート型に裁断された状態で使う当てもなく大量に保管されていた。一方、ヒノキは根元部分や形が曲がった、森を管理する上で支障となる除伐材。節や穴があって使いづらいことから集成材の材料にするぐらいで、単価が安く伐採コストの採算がとれにくいものだった。

今年1月に双方の存在を知った



酒井氏は「何とかできないだろうか」と思い立った。実はちょうど自主企画でモノを作ろうと構想を練っていた時期でもあった。

■関わる全員にいい思いを

大手メーカーと組んで家電製品やケータイなどのデザインを長年手掛けてきたが、新製品の発売時期はどんどん早まり、コストの切り詰めも厳しさを増すばかり。「モノ作りでの関心はお金と時間ばかりで、夢を語る余裕がなくなってきた」という。

デザインで冒険もできなくなり、必然的に新しいものが生まれにくい環境にもなっていた。「楽しいモノ作りをするには自分たちでやるしかない」

ただし、売れるものを作っているだけでは単なる自己満足に終わってしまう。そこで今人気のあるiPadやiPhoneと絡ませる雑貨を作ることを早々に決定。組むデザイナーも各分野で輝く実力派の中から、売り場に商品を並べた時にバラエティー感が生まれ、幅広い客層に訴えられる作り手を選んだ。

除伐材を通常の1.2倍程度の価格で購入、工場にも無理のない適正価格で発注するなど「関わる人全員がいい思いができるサンプルを作る」ことがモットー。だが、製

作り手多彩、美しく便利に



酒井俊彦氏

品の構造の見直し、生産工程の工夫などでコストを抑える努力も。披露した製品の大半が3000円台で買えるのも、工程を熟知するデザイナーの酒井氏が全体をプロデュースしたからこそ実現できた。

今月20日から酒井氏のサイトでネット通販を開始し、同時に東京・原宿のデザイン雑貨店「アシストオン」が全商品を販売する。「エコ商品」という意義を訴えるばかりでデザイン性や商品の魅力に欠けるものが多いが、sampleは便利で美しく買いやすい」と同店の大杉信雄社長は期待を寄せる。

「優れたデザイナーと仕事ができて楽しかった」と話す酒井氏。そのすがすがしい表情には、妥協することなくモノ作りができた充実感と、モノを作る＝ゴミを増やすという常日ごろ自問自答してきた後ろめたさを「少しいいこと」で解消できたうれしさが見て取れた。（ライター 佐藤俊郎）

